

校長室だより

第36号

発行日 2009年9月8日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤 滋

【新型インフルエンザ】

今回のインフルエンザの流行は、この学校での様子を見ていますと、感染力がこれまでのインフルエンザに比べて遥かに強いと思われます。症状としては発熱、咳、鼻水などで大きな違いはないようですが、急に熱が上がることも多いようですので注意が必要です。

夏休み後に4年2組で学級閉鎖としましたが、それからは他の学級でも複数の児童への感染は見られません。9月7日現在、4年2組の児童は全員出席できるようになりますが、引き続き学校としては慎重な対応をしていかなければなりません。

神奈川県では県立学校に対して今回の新型インフルエンザの感染について次のような対応をするよう呼びかけておりますので、保護者の皆様にもお伝えいたします。(原則として桐光学園小学校でも以下のように対応いたします。)

同一集団(原則として同一学級又は部活動単位等)において、2人目の児童生徒にインフルエンザ様症状があり、PCR検査が実施され、新型インフルエンザと診断された場合、当該児童生徒の属する学級は学級閉鎖とする。

学級閉鎖の期間は、2人目の児童生徒が新型と確認された日を1日目と数え、5日間とする。

なお、新型インフルエンザの感染が他の学級で発生した場合も同様の対応をするが、同一学年で2学級以上に感染が拡大した場合は、原則として学年閉鎖を行う。さらに感染が拡大した場合は、教育委員会と相談の上、全校臨時休業を検討する。

【子どもとの会話から】

廊下で会った6年生の男の子が、「昨日は休校になってさみしかったです。学校に来たかったです。」「そうですね、でも、小さい子があの雨の中登下校する姿を想像するとどうしても休みにしてあげたくなるんですよ。」「ぼくもまだ小さいよ。」「でも、あなたはしっかりしているからね。」「そうだね、ぼくはしっかりしているね。」その後あと2人で笑い・・・。

学校での毎日の生活を楽しみにしている子どもたちがいることを嬉しく思いながら、会話の後半の「そうですね、ぼく・・・」の部分がなかなか面白かったです。笑いがなければもっとよかったです。その気になった子どもの表情からは自信のようなものさえ感じられました。その後ボールを持って校庭に飛び出して行ったその子は何事もなかったかのように元気に遊んでいました。

ほんの30秒の会話でもお互いの心が心地よさを感じるものがあります。そういうことの積み重ねを大切にしたいものです。

【感心したこと】

数日前、掃除が終わろうとした頃に、6年生の女の子がごみ置き場で一生懸命にごみを拾っている姿を見かけました。「どうしたの?」と聞くと、「教室のごみを捨てにきて箱に入れようとしたときにこぼしてしまったんです。」とのことでした。教室から出たごみを入れる箱がいっぱいになっていたために彼女が持ってきたごみの一部がこぼれてしまったのでした。これまでごみ置き場にはこぼれた紙くずなどが落ちていることがありましたが、それを自分の手で拾う子の姿はあまり見かけたことはありませんでした。

でも、こうやって自分から進んで取り組んでくれる子がいることも確かです。感心させられたと同時に、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。「ありがとう」の一言で私の気持ちが伝わったかどうか分かりませんが、彼女の行動は私をどれだけ幸せな気持ちにしてくれたことでしょう。

【日常】

「日常」の意味は「つねひごろ、ふだん」というものでしょうか。また、毎日の生活でごく普通に、当たり前のことのようにしていることもその意味に含まれるでしょう。

桐光学園小学校では、1年生の頃から毎日課題(宿題)があり、家に帰ると時間の長短はあるにしても、机に向かうこと(勉強)が日常のことがらの一つとして行われています。家庭学習が習慣化されていて、それを当然のこととして子どもたちが行っています。

しかし、私たちが子どもたちに求めるものはそれだけではありません。上述したように、ごみがこぼれてしまったら捨つことができることのように、自分の目の前で起こる様々なことに対して、自分の判断で適切な行動ができるようになることが何より大切です。教員や親に言われてから気づくことも多いでしょうが、それがだんだんと少なくなっていくのが成長というものでしょう。

私は、改めて子どもたちと一緒にめんどうなことにも進んで取り組むことができる人間でありたいと思い、そのように努めていく気持ちになりました。